

液体研磨剤 貴金属・樹脂用・成分表、安全シート

柳 瀬 株 式 会 社
兵庫県丹波市山南町谷川 1385
Tel : 0795-77-2151
作成日 : 2007年2月16日
変更日 : 2024年1月29日
整理番号 : MSDS-X012

液体研磨剤 貴金属・樹脂用 (YHK-54)

危険有害性の要約

GHS 分類結果

物理化学的危険性	
可燃性固体	分類できない
健康に対する有害性	
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分 1
環境に対する有害性	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル :



注意喚起語 :	危険
危険有害性情報 :	長期にわたる、または反復暴露により臓器の障害
注意書き	
[応急措置] :	気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
[廃棄] :	内容物/容器を関連法規制ならびに地方自治体の基準に従い廃棄すること。

重要危険有害性 長期にわたる、または反復暴露により臓器の障害

組成及び成分情報

単一物質・混合物の区別	混合物・リキッド状
一般名または化学名	酸化アルミニウム・油脂複合体

成分情報

化学名または一般名	化学式	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度または 濃度範囲(%)
酸化アルミニウム	Al ₂ O ₃	1344-28-1	(1)-23	38.1
モノカルボン酸 (動物性油脂由来)	C _{n+2} O ₂ H _{2n+4}	特定できず (544-63-8,57-10-3,57-11-4 など)	(2)-608	11.8
水分	H ₂ O	7732-18-5	-	48.0
乳化剤・安定剤	C ₆ H ₁₅ NO ₃	102-71-6	(2)-308	1.7
U l t r a m a r i n e	Na ₆ Al ₄ Si ₆ S ₄ O ₂₂	57455-37-5	(1)-22	0.4

GHS 分類に寄与する危険有害成分

酸化アルミニウム

応急措置

暴露経路による応急措置

- 吸入した場合： 直ちに空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。吐き気、頭痛などの症状が続く場合には、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合： 皮膚への刺激や不快感が生じた場合、製品の使用を止めること。粉末が付着したときは、大量の水で洗うこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。高温の熔融ピッチが付着したときは、熱さや痛さを感じなくなるまで、十分な時間、流水により冷却し、火傷の進行を防ぐこと。その後、医師に連絡すること。
- 眼に入った場合： 水で15～20分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合： 水で口の中をよくすすぎ、胃の内容物を薄めるためにコップ1～2杯の水や牛乳をゆっくり飲ませる。ただし、意識混濁・昏睡状態、痙攣などの場合は、何も与えず、直ちに医師に連絡すること。可能であれば、指をのどに差し込み吐き出させること。

応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて空気呼吸器、適切な眼・皮膚の保護具を着用する。

火災時の措置

消火剤

粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素（炭酸ガス）、砂

使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

特有の危険有害性

火災時に刺激性、腐食性及び毒性の煙、蒸気、ガス、フェームを発生するおそれがある。

一酸化炭素、二酸化炭素、炭化水素を生成するおそれがある。

特有の消火方法

消火活動は風上から行う。
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、有害な煙、蒸気、ガス、フュームの吸入を避ける。
適切な空気呼吸器、眼・皮膚の保護具を着用する。

漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

周辺環境に影響があるおそれがあるため、製品の環境中への流出を避ける。
水生環境中で長期に亘り影響を及ぼすことがある。

回収、中和、封じ込め、および浄化の方法

少量の場合：まず、火気がある場合には速やかに取り除き、引火を防ぐ。
次に、ウェスで拭き取るか、掃き集めて回収する。
多量の場合：製品が熱により溶融している場合、まず、土砂等で流出の拡大を防止する。
次に、冷却し製品が固化するのをまって掃き集めて回収する。

二次災害の防止策

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策： 「暴露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱い注意事項： 取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

保管

技術的対策： 保管場所には危険有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設定を設ける。
保管条件： 容器を密閉して換気の良い冷所で保管する。
高温にならないように保管する。
容器包装材料： 破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

暴露防止及び保護措置

管理濃度・作業環境評価基準

粉じん：E = 3.0 mg/m³（遊離ケイ酸を含有しない場合）

許容濃度（暴露限界値、生物学的暴露指標）

日本産業衛生学会（2010）：0.5 mg/m³（アルミナ；第1種粉じん、吸入性粉じん）
2 mg/m³（アルミナ；第2種粉じん、総粉じん）

ACGIH TLV-TWA（2010）：10 mg/m³（酸化アルミニウム、遊離ケイ酸含有率が1%未満で石綿を含まない粒子上物質の場合）

保護具

通常の手配において不要である。必要に応じて次の保護具を着用すること。

呼吸器の保護具： 防じんマスク
手の保護具： ゴム手袋、軍手
眼の保護具： 保護ゴーグル
皮膚及び身体への保護具： 作業用の長袖上衣、長ズボン、帽子、前掛け

設備対策

粉じん/フェーム/蒸気/ガスが発生する場合は換気装置を使用する。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。
取扱い場所の近傍では飲食、喫煙の禁止。
汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。

物理的及び化学的性質

外観	スカイブルー（固体）
比重	2
融点	53.5～57℃
沸点	180～230℃
引火点	203℃
燃焼熱	9450 cal/g
溶解度	水：不溶、有機溶媒：可溶

安定性及び反応性

安定性

通常の手配条件下では安定である。
自然発火しない。
水と反応しない。
酸化性はない。

避けるべき条件

成分のモノカルボン酸は、苛性ソーダ、苛性カリ等のアルカリ性物質と反応して塩となる。
引火するおそれがあるので、火気、熱源との接触を避ける。

有害性情報

製品の有害性情報 情報なし

成分の有害性情報

酸化アルミニウム

急性毒性：

ラット（経口） LD₅₀ >5000 mg/kg

発がん性：

ACGIH で A4（ヒト発がん性に分類できない物質）

特定標的臓器毒性

（反復ばく露）：

酸化アルミニウムの職業ばく露により、肺に繊維症が認められたとの報告がある。

ステアリン酸：

急性毒性：

マウス（腹腔内） LD₅₀ 23 mg/kg

眼に対する重篤な損傷性・

眼刺激性：

ラビットに 75mg 適用したところ Mild な刺激性であった。

環境影響情報

製品の有害性情報 情報なし

廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

汚染容器および包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

輸送上の注意

国際規制

国連番号： 該当せず

海洋汚染物質： 該当せず

国内規制

陸上規制情報： 該当せず

航空規制情報： 該当せず

海上規制情報： 該当せず

緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号 該当せず

特別の安全対策：輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

適用法令

労働安全衛生法：名称等を通知すべき有害物（酸化アルミニウム；1%以上含有する場合）
毒物及び劇物取締法：非該当
化学物質管理促進法（PRTR法）：非該当
消防法：指定可燃物（可燃性固体類）
水道法：有害物質（アルミニウム及びその化合物）
海洋汚染防止法：有害液体物質（Y類物質；飽和脂肪酸（炭素数が13以上のもの及びその混合物））
じん肺法：粉じん（アルミナ）

その他の情報

参考文献：創研工業株式会社資料
化学物質総合情報提供システム（CHRIP）GHS分類結果
（<http://www.safe.nite.go.jp/ghs/list.html>）
日本産業衛生学会（2010）許容濃度の勧告
ACGIH（2010）TLVs and BEIs

【注意】本MSDSは、JIS Z 7250:2005、JIS Z 7251:2006、JIS Z 7252:2009に準拠しました。

作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいていますが、コールタールピッチには、有害性の可能性がある数多くの多環芳香族炭化水素が含まれており、それらの多くは特定されていません。その結果、本MSDSの記述内容は必ずしも十分ではありませんので、取扱いにはご注意ください。本MSDSの記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。